

# 題材名 「日本の音楽に親しもう」

第5学年 A 表現(1)歌唱 及び〔共通事項〕

## ◆本実践の概要

都節音階と律音階、二つの音階の「子もり歌」を聴き比べ、それぞれの音階が生み出す雰囲気の違いを感じ取り、「子もり歌」の歌唱表現の工夫につなげていくように授業を構成した。どのように歌うのか考えを深める際には、「①都節音階の表現の工夫」「②律音階の表現の工夫」「③両方を比較した表現の工夫」の3パターンを示し、各自で選択して考えられるように工夫をした。

### 1 題材の目標

- (1) 音色や音階と曲想との関わりを理解して、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付ける。
- (2) 音色や音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。
- (3) 我が国や郷土の音楽特有の音階や楽器の音色の特徴に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組み、我が国や郷土の音楽への親しみを深める。

### 2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①知 音色や音階と曲想との関わりを理解している。 ②技 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けている。	③思 音色や音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	④態 我が国や郷土の音楽特有の音階や楽器の音色の特徴に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組もうとしている。

### 3 題材について

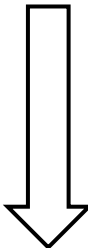
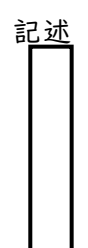
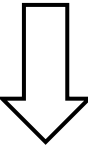
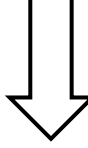
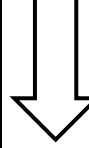
本題材では、日本の音階に親しみ、二つの音階の感じの違いを感じ取って歌ったり、箏と尺八による音楽を鑑賞したりする活動や学習を通して、我が国の音楽に親しみながら、長く受け継がれてきた伝統や文化への理解も深めていくようにする。

授業で使用する機器は大型モニターと1人1台端末である。1人1台端末を使用することで、児童一人一人が自由に聴きたい音階を聴くことができたり、友達の意見をもとにもう一度聴いたりすることが可能となる。そうすることで、児童の思考を深めたり、曲全体を味わって聴いたりすることにつながっていく。また題材の中ではミライシードのムーブノートを使用する。個人で考えたことを全体で共有したり、キーワードの集計機能を使い、どんなキーワードを使っている人が多いのかを数値で確認したりしながら、考えを深めていくようにする。

#### 4 指導事項との関連

A 表現	(1) 歌唱ア・イ・ウ(1)、
[共通事項]	(1) ア・イ
	本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素 「音色」、「音階」

#### 5 指導と評価の計画

時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	評価の観点		
		知・技	思	態
1	◎日本の楽器のひびきを味わって聴く。			態 聴取・ 発言・ 記述 <input type="checkbox"/>
	○箏と尺八の音色に親しみ、全体の構成をつかんで「春の海」を聴く。 ・箏体験のことについて振り返り、気付いたことを伝え合う。 ・ <input type="checkbox"/> の部分聴き、どこの国の音楽か想像しながら聴く。 ・箏と尺八のかけ合いを聴き取る。 ・ <input type="checkbox"/> の部分聴き、情景を想像しながら、気付いたことを話し合う。 ・情景に合わせて音色や旋律が変化していることに気付く。			
2	◎二つの音階の美しさを感じ取り、それぞれの感じの違いを味わって歌う。			態 聴取・ 発言・ 記述 <input type="checkbox"/>
	○箏の音色や日本の音階の美しさを感じ取り、日本の音楽に親しむ。 ・既習教材の「さくらさくら」を聴き、箏の音色に親しむ。 ・箏だけで演奏された「さくらさくら」「子もり歌(都節音階)」を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 ・「子もり歌」(都節音階)の範唱を聴き、歌詞の内容や日本の音楽の感じを捉える。 ・音色や音階と曲想との関わりを意識しながら、「子もり歌(都節音階)」を歌う。	①知 聴取・ 記述 	思 聴取・ 発言・ 記述 	
3	○二つの音階の感じの違いを味わい、「子もり歌」の表現について思いや意図をもち、曲にふさわしい歌唱表現を工夫して歌う。 ・「子もり歌」(律音階)の範唱を聴き、都節音階との感じの違いを比べる。 ・音色や音階に合った歌い方の工夫について思いをもって歌い、二つの音階の違いを味わう。	②技 聴取・ 記述 		

#### 6 本時の授業（第3時）

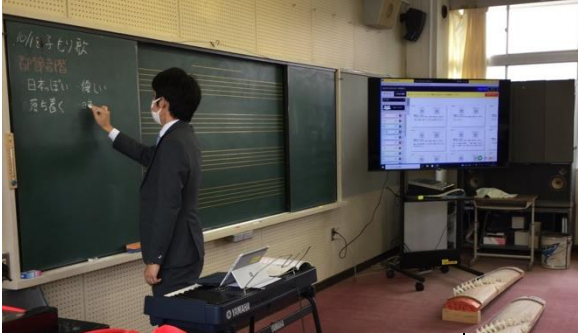


##### (1) 本時の目標


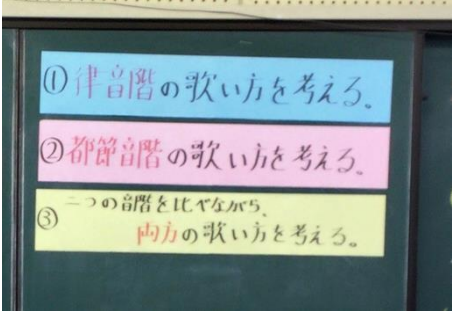
二つの音階の感じの違いを味わい、どのように歌うのかについて思いや意図をもち、表現の工夫を考える。

##### (2) 本時の評価規準

- ・思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けている。【技能②】
- ・音色や音階を聴き取り、それらの働きが生み出すさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。【思考・判断・表現①】

(3) 本時の実際

学習過程	学習内容・予想される児童の活動	指導・手立て・発問	資料(○) 評価(☆)
<p>導入 7分</p>	<p>1. 常時活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わらべうたを歌う。</li> <li>・「子もり歌(都節音階)」を歌う。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の音楽に親しめるようにする。</li> <li>・都節音階の感じ方の特徴を確かめる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e0ffe0; margin-top: 10px;"> <p>前時で出された意見を、ムーブノートを使い全体で振り返りながら、都節音階の特徴を確かめた。</p> </div>	
<p>展開 10分</p>	<p>2. 「子もり歌(律音階)」を聴く。</p>  <div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e0ffe0; margin-top: 10px;"> <p>ムーブノートのシートの中に、デジタル教科書の2つの音階の子もり歌が聴けるページのリンクを貼っておき、すぐに聴くことができるように、また各自のペースで聴き比べができるようにした。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・律音階の子もり歌もあることを知り、同じ歌詞でも、音階が違っていると感じ方が違うことを捉えられるようにする。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>「子もり歌」を聴いてみよう</p> <p>旋律1 (律音階) 旋律2 (都節音階)</p>  <p>「律音階」ってどんな感じ? (都節音階と比べて)</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>都節音階よりも明るくて子守唄なのに眠れない感じになっていっている</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>「子もり歌」の表現の工夫を考えよう。</p> </div>	<p>○タブレット ○大型テレビ</p>

<p>20分</p>	<p>3. 「子もり歌」の表現を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・律音階と都節音階それぞれの音階の「子もり歌」の表現について工夫を考えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の表現したい子もり歌はどんな感じなのかを考え、それに合った表現の工夫を以下の中から選択していく。</li> </ul> <p>①都節音階の子もり歌の歌唱表現の工夫を考える。</p> <p>②律音階の子もり歌の歌唱表現の工夫を考える。</p> <p>③(二つの音階を比べながら)両方の歌唱表現の工夫を考える。</p>	<p>○タブレット ○大型テレビ ☆<b>思</b>①</p> 
	<p>4. 全体で歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えた工夫を歌ってみたり、友達が考えた工夫を全体で歌ってみたりする。</li> </ul>	<p>3パターンの学び方を示し、各自で選択しながら考えられるようにした。また、個人で考えたことを、その都度ムーブノートを使い全体で共有しながら進め、考えを深めたり、工夫を考えることが困難な児童のヒントにしたりしながら、授業を進めた。</p>	<p>☆<b>技</b>②</p>
<p>まとめ 8分</p>	<p>5. まとめる。</p> <p>思いに合った音階を選ぶことで、思いを表現しやすくなる。</p> <p>6. ふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ムーブノートに学習感想を書く。</li> </ul> <p>まとめ</p> <p>思いに合った「音階」を選ぶことで、思いを表現しやすくなる。</p> <p>ふり返り</p> <p>音階が変わるだけで曲の感じも雰囲気も変わって気分や思いによって変えることができる。</p>	<p>まとめ</p> <p>思いに合った「音階」を選ぶことで、思いを表現しやすくなる。</p> <p>ふり返り</p> <p>都節音階だけでなく他にも律音階という音階を知れて、歌い方の選択肢が増えたから歌いやすくなった。</p>	<p>○タブレット</p>

## 7 実践を振り返って

律音階を初めて聴かせる出会いの場面で、歌の CD 音源ではなく、実際に箏で演奏したことにより、子供たちは興味をもって聴くことができ、都節音階との比較もしやすかった。表現の工夫を考える場面では、ムーブノートで子供たちの意見を共有しながら進めたことで、考えを深めるだけでなく、思いを伝えることが苦手な子供や考えるのが難しい子供たちも取り組みやすかった。また、3パターンの学び方を示したことで、子供たち一人一人が学びを自己調整しながら、個別最適な学びを実現している姿が見られた。